保健センター健康通信

保健センターから父母の皆様へ

成人・大学生の予防接種について

予防接種は子どもだけのものではありません

予防接種の記録ページが母子手帳にあるためか、「予防接種は子どもにするもの。大人になったらせいぜいインフルエンザの予防接種ぐらい。」と思っている人が少なくありません。大人にも必要な予防接種が多数存在します。本稿では大学生に必要な予防接種についてご説明します。

将来のガンを予防するワクチン（予防接種）があります

［ヒトパピローマウイルス（HPV）］

女性特有のがんのうち、「子宮頸がん」はヒトパピローマウイルス（HPV）というウイルスの感染が原因で起こることが知られており、ワクチンでこの感染を防げば発ガン予防になることが知られています。詳しくは、2010年冬号をご参照ください※。注射に伴う痛みが強い場合があることと費用が高額なために躊躇する人が少なくないようですが、若年女性は積極的に接種されることをお勧めします。

※ヒトパピローマウイルス（HPV）に関する2010年冬号は保健センターのホームページ内「保健センターからの広報記事等」でご覧いただけます。

子どもの頃に接種していても効果が十分でない（持続していない）場合があります

現在在学中の学生さんが子どもの時には、麻疹（はしか）や風疹は1回だけ接種すれば良いと法律で定められていました。1回だけの予防接種では、十分に効果が出なかったり、たとえ始めに効果があっても年月の経過とともに効果が減弱する場合があります。2007年に大学生・高校生の間で流行した麻疹はこれらが原因で、大学生の年代で十分な免疫を持つ人が少なくなっていたために流行してしまったと考えられています。人口の95%に予防接種が行き渡れば流行を防止できると考えられていますが、厚生労働省の発表では、高校3年生が対象の第4期麻疹・風疹混合ワクチン（MR）の2011年度接種率は全国平均で62.5%に過ぎませんでした。本学でも4回生薬学部臨床実習前検査（2011年度）で、25%の学生が麻疹抗体陰性であったため追加接種が必要でした。

抗体が陽性の方がワクチンを接種しても問題はありませんが、抗体検査を受ける機会（留学前や臨床実習前など）がない方は、各自で積極的に検査を受けてください。抗体が無ければ追加接種を受けておきましょう。特に、MR4期の接種を受けておられない方は、任意接種で受けておくことを強くお勧めします。

成人の予防接種

わが国では成人に対する予防接種のガイドラインや推奨スケジュールはありませんが、成人でも打っておくべき予防接種がいくつかあります。米国の成人に対する予防接種スケジュールが参考になりますので、表にお示しします。日本では馴染の無いワクチンや承認されていないワクチンも含まれています。主たるものだけ以下にご紹介します。

［破傷風］

破傷風は、土の中などに存在する破傷風菌に感染し、毒素によって強直性けいれんをひき起こす感染症であり、致死率の高い疾患です。定期予防接種を確実に受けておられる場合は、11歳時に破傷風・ジフテリア2種混合ワクチン（DT）を接種されているはずです。しかし、10年以上経過すると破傷風の抗体価は低下するため、10年毎に破傷風トキソイド（T）の追加接種を受ける事をお勧めします。過去に接種をしている場合はとりあえず1回の接種で10年間は効果があると考えられていますが、はじめて破傷風のワクチンを接種する場合は3回接種が必要です。

米国では、破傷風だけではなくジフテリア（D）や百日咳（P）のワクチンを含む成人用の二種または三種混合ワクチン（Td /Tdap）の接種が勧められています。残念ながら、これらのワクチンはわが国では承認されていません。近年、成人での百日咳の発症・流行が問題になっていることから、今後日本でも成人に対する百日咳ワクチン製剤や接種ガイドラインが必要と考えられます。

米国で推奨される成人の予防接種（2012）

（MMWR/February 3, 2012/Vol.61/No.4 より改編）

ワクチン	年齢 19-21	22-26	27-49	50-59	60-64	≧65
インフルエンザ	毎年 1回					
破傷風・ジフテリア・百日咳（Td／Tdap）※1	Tdapを1回追加接種後。その後は10年毎にTd					Tdap/Td
水痘	2回					
ヒト・パピローマウイルス（HPV） 女性	3回					
ヒト・パピローマウイルス（HPV） 男性※1	3回					
帯状疱疹※1					1回	
麻疹・ムンプス・風疹（MMR）※1	1又は2回			1回		
肺炎球菌（PPSV）	1又は2回					1回
髄膜炎菌※1	1回 又は複数					
A型肝炎	2回※1,2					
B型肝炎	3回					

※1 日本では未承認 ※2 日本のワクチンは3回接種

対象年齢全員：過去の接種記録が不明、又は既往の明らかでない場合。

他の危険因子が存在する場合に推奨。（例：疾病、職業、生活習慣、その他）

12ヶ月未満の乳児に接触する65歳以上の人にはTdapを推奨する。乳児との接触がない場合は、TdでもTdapでも良い。

［肺炎球菌］

日本人の死因の4位は肺炎です。その原因の半数を占める肺炎球菌に効果のあるワクチンが開発されています。肺炎球菌には80種類以上の型がありますが、そのうちの23種類の成分を含む23価が成人用、7種類（あるいは13種類）の成分を含む7価（あるいは13価）が小児用です【日本では7価のみ・米国では13価】 65歳以上の方には23価の接種をします。若年成人であっても心臓病・呼吸器疾患・糖尿病・腎臓病（腎不全や人工透析を受けている人）などの慢性疾患のある人には米国では接種が勧められています。当初認められていなかった再接種は2009年より対象を限定して認可されたので、若年成人でもリスクがあれば積極的に接種することが勧められます。

渡航前の予防接種

［A型肝炎］

A型肝炎は、A型肝炎ウイルスの経口感染で発症する肝臓障害です。小児期に感染しても多くは不顕性感染となり、肝炎は発症しません。高齢者の多くは抗体を持っていますが、50歳未満の方はほとんど抗体を持っていないことが知られています。大学生の年代ではほとんどの人に抗体がありません。アジアの各国へ旅行・留学する前には予防接種をしておくことをお勧めします。

A型肝炎のワクチンは、日本では16歳以上に3回（0日、1か月、7か月）接種する製品が存在します。米国で使用されているもの（HAVRIX®）【日本では未承認】は2回（0日、1年）接種すれば足ります。

［コレラ・大腸菌ワクチン］

発展途上国へ旅行する人の半数以上は旅行者下痢症にかかり、スケジュールに支障をきたすことがあるそうです。その原因として最も多いのが病原性大腸菌ですが、コレラに対する経口ワクチン（DUKORAL®）【日本では未承認】がこれにも有効であると言われています。希望される方は個人輸入で投薬してもらえるトラベルクリニックへご相談ください。

下記の保健センターのホームページもご覧ください。

〈立命館保健センター〉
http://www.ritsumei.ac.jp/mng/gl/hoken/
立命館大学ホームページ ▸ 各センター等 ▸ 保健センター